

ISSN 0288-139X

---

# 水草研究会会報

---

69号 (2000年3月)



Bulletin of Water Plant Society, Japan

No. 69 (Mar. 2000)

水草研究会

— 目 次 —

|                                                                |    |
|----------------------------------------------------------------|----|
| 中庭 正人：茨城県ひたちなか市海岸の海産顕花植物の現状 .....                              | 1  |
| 下田 路子・関岡 裕明・宇山 三穂・中本 学・筒井 宏行<br>：「水田雑草」の動態と保全—敦賀市中池見の事例— ..... | 5  |
| 浜島 繁隆：ガガブタの異形葉と葉の再生実験 .....                                    | 12 |
| 藤井 伸二：ヒキノカサの個体群規模と生態に関するノート .....                              | 16 |
| 高田 順：ホシクサ属数種の種子形態（3） .....                                     | 22 |
| 上赤 博文：佐賀県のヒシモドキとデンジソウ（続報） .....                                | 35 |
| 角野 康郎：「蓴菜饅頭」 .....                                             | 39 |
| 水草関連文献リスト，総会報告，他                                               |    |

〔表紙写真〕カサスゲ（兵庫県加美郡中町 思出川，1999年4月）

スゲの仲間には熱烈なファンが少なくない。「すげの会」の会員も200名近くに達する。しかし、我々一般には同定がむずかしい植物群という意識があつて、どうしても敬遠しがちになる。私は水辺のスゲ類だけでもしっかり勉強したいと思っているが、時期をのがすと同定ができなかったりするので、なかなか思うように進まない。

カサスゲは、菅笠や蓑を編むために使われたことからこの名が付いた。かつては栽培もされていた。水辺のスゲとしてはもっとも普通に見られる種のひとつであるが、いざ探すとするとどこにでもあるわけではない。それはもちろんカサスゲ群落の成立にはそれにふさわしい環境が必要ということにもよるが、最近、カサスゲ群落そのものが減少しているのではないだろうか。兵庫県のため池や河川を回っていてその思いが強い。立派な群落がまだ残っていることも事実だが、確か前にはここにもあったという場所から消えているのである。護岸の改修工事が原因とわかる場合もあるが、消滅の理由がわからない場合も多い。

希少種が危なくなると世間では大騒ぎになるが、普通種の増減も水辺環境の変化についてさまざまなことを示している。カサスゲ群落の消長もその一例ではないだろうか。他の地域では如何ですか？

（写真と文：角 野 康 郎）